



手回し式計算器

波田 尚大



今月ご紹介するのは、平成 4 年(1992)に飯能市立図書館から寄贈を受けた「手回し式計算器」です。本計算器は黒を基調とした丸みのあるデザインで、前面に「Tiger Calculator(タイガー計算器)」と刻印されています。数字が書かれたダイヤルが 3 面ありますが、右上の面に数字を入れて、右側面についたハンドルを奥にまわすと→左下の面に回した回数がカウントされ→右下の面に右上の面の数を足した合計が表示されます。同様にハンドルを手前にまわすことで→左下の面に回した回数がカウントされ→右下の面から右上の面の数を引いた合計が表示されます。この仕組みを利用して、足し算・引き算・掛け算・割り算を行います。

「株式会社タイガー」の WEB サイト上の「タイガー手廻計算器資料館」に計算器製造・販売の歴史と、様々な形式のタイガー計算器が紹介されています。これによると、大正 12 年(1923)に大阪府西成郡鷺洲村海老江(現・大阪府大阪市福島区海老江)の工場で大本 寅治郎が第 1 号計算器を発明しました。寅治郎の「寅」の字をとって「虎印計算器」と命名されましたが、当時は国産品の信用が低かったために「虎印」を「TIGER BRAND」に変更し製造・販売を行っていたそうです。

本計算器の正面左上には「No.156422」と製造番号が記されています。同サイトの情報と形状などから、本計算機は昭和 30 年(1955)前後に製造されたものと推定されます。飯能町が市制を施行し、飯能市になったのが昭和 29 年(1954)1 月 1 日なので、その前後に町役場・市役所で使用されていたものと考えられます。

かつては算盤やこうした計算器を用いていましたが、現在の市役所において金額の計算は電卓だけでなくパソコンも使用しています。道具は時代を追うごとに改良され、便利になっています。本資料はそうした技術の発展とともに、日々のくらしがどのように変化してきたのかを私たちに伝えてくれる一品です。(民具 No.2828)

【参考 WEB サイト】

タイガー手廻計算器資料館 <https://www.tiger-inc.co.jp/temawashi/temawashi.html>

(株式会社タイガーWEB サイトより)